

高等養護学校における対人関係に課題がある学級集団の 友達同士のかかわり方を高める実践的研究

— グループエンカウンター及びソーシャルスキルトレーニングの活用 —

特別支援教育班 松村 秀人（特別支援学校教諭）

生徒の実態

みんなひとりで行動することが多い。

身体に触ったり、しつこく働きかけたりする。

友達とのかかわりが少ない

不適切なかかわりをしてしまう

研究のねらい

構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを通して、自信や自己有用感を高めたり、他者とのコミュニケーションに必要な具体的なスキルを学んだりすることによって、適切なかかわり方ができるようにする。

手だて

LHRの時間に **構成的グループエンカウンター** を行い、友達や集団の意識を高める。

生活単元学習に **ソーシャルスキルトレーニング** を取り入れ、活動の中で具体的なかかわり方を体験する。

活動例

◇友達を誘って一緒に活動するための言葉とルールを実践する。

ワークシートで学んだあと、実際に活動の中でやりとりできるようにしました。

できたことはほめ、困っているときはヒントを与えて支援しました。

一緒にやろうよ！

いいよ。

成果と課題

☆生徒間でのかかわりが増えた。（右図の赤矢印）

☆2つの手法を並行して行ったことにより、「友達にかかわろうという気持ち」と「かかわるときの具体的な知識・技能」の両面を伸ばすことができた。

★学習した知識・技能を日常生活で生かせるような工夫が必要。

★グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングをどのように関連づけて行おうか。

☆ → 成果 ★ → 課題

図 生徒間のかかわりの変化